

大西紙工有限会社

最新鋭スリッター機導入による販路拡大、価格競争力の強化

最新鋭スリッター機を導入し、「高精度、高品質のスリット加工」を活かした新素材（不織布、フィルム素材）への技術応用、商品開発の推進による競争力の強化を図った。

事業取組みの経緯

当社は、昭和36年に創業、昭和60年頃から紙製品のスリット加工を主力としてきた。スリット加工とは、大きな幅をもつ長尺シート(原反)を一定の幅で連続切断し、ロールやリールに巻き取る加工である。主に地場の製紙企業で製造された紙製の原反をエンドユーザーの用途に応じたサイズ・長さに切断加工している。

高品質製品を実現してきた実績から、新素材の加工依頼が増加傾向にあり、既存の設備では能力に限界があり、受注への対応が追いつかない状況が生じていた。

最新鋭のスリッター機を導入することで、需要が高まりつつある不織布やフィルム素材のスリット加工に参入できる。さらに、得意とする細幅スリット加工技術を活かした商品開発により、他社との差別化を図ることができ、市場の掘り起こしによる販路拡大が見込める。生産能力を改善し、高品質、短納期の実現により競争力強化を推進することで、会社発展につなげるため、最新設備の導入を計画した。

実施内容

最新鋭スリッター機を導入した。これまでは、手作業による高度な設定調整が要求されることから、熟練したオペレーターでなければ、正確な加工が難しく、調整作業にも時間を要していた。また、簡易な安全装置はあるものの旧式のため、機械への巻き込みの危険性があった。最新機器の導入により、各種設定の自動化や調整作業の簡素化のほか、接圧制御装置等の機能追加されたため、作業時間短縮が可能となった。



事業取組みの成果

顧客の様々な要望に対応できる体制が整備できたほか、精度向上により紙粉の発生が減少するとともに、スリット加工後の巻取り紙を固巻にし、太鼓面を凹凸が少ない状態に仕上げるなど品質が向上した。また、従来機に比べて調整作業の時間が短縮され、自動化により作業も簡素化された。さらに、安全装置により重大事故の発生リスクも軽減できた。

今後の活動予定

これまでは紙加工を主体に事業を展開してきたが、需要が高まっている不織布やフィルム素材等の新たな素材への加工が可能となり、既に土木・建築資材に使用する材料の加工依頼や商品開発に係る問合せ等の新たな業界からの引き合いが増えており、新市場に参入する。

また、現状の受け身の営業を改め、細幅スリット加工の技術力を活かした商品開発によりさらなる受注拡大につなげていく。

大西紙工有限会社

■代表者／代表取締役社長 大西 勝義

■本社住所／〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町894-5

■TEL／0896-57-2080

■FAX／0896-57-2081

■設立年月日／1976年3月25日

■資本金額／800万円

■従業員数／40名

■業 種／紙製品の製造加工

■事業拠点／本社工場 愛媛県四国中央市上分町894-5

金生工場 愛媛県四国中央市金生町下分2334

山田井工場 愛媛県四国中央市金生町下田井109-1

企業概要

不織布を使用した手術用オイフ、ドレープ、シーツ及びガーゼ等の医療用品(メディカル商品)の製造、加工を行っているほか、紙が巻かれたロールを裁断するスリッター加工を手掛けている。不織布等を主材とする使い捨ての医療用品の製造が主体であり、製造・加工している製品は、数百種類に及んでいる。

主要取引先

株式会社リブドウコーポレーション、城山製紙株式会社、白川製紙株式会社

主要商品



スリッター加工製品の一例(例)

長尺の紙を必要な幅に裁断し、ロールやリールに巻き取る加工を行っている。
・加工が可能なサイズは、幅が5mmから1,250mmまで、直径が500mmまで。
・不織布やフィルム素材等の一般紙以外でも対応できる。



メディカル商品の一例(例)

いずれも不織布を使用して製造・加工したディスプレイ商品である。

・手術用オイフ
・ドレープ
・シーツ
・ガーゼ 他

※左の写真は、ドレープの加工例である。

主要設備

スリッター機、撚紐機、打ち抜き機、折機、断裁機

担当者	代表取締役社長 大西勝義
連絡先	0896-57-2080